

## 2019 平和行動 in 沖縄に「北海道代表団」を派遣

連合北海道は、11月7日～10日の日程で沖縄県に15人の北海道代表団を派遣した。例年、平和オキナワ集会は6月23日の「慰霊の日」を中心に実施しているが、今年は第25回参議院議員選挙があったため、6月の集会は代表者の派遣にとどめ、改めて連合北海道独自の取り組みをこの時期に実施した。

今回の平和行動は、伊江島の戦跡をはじめ、道の駅かでな、ひめゆり資料館、平和祈念資料館などを見学した。また、普天間飛行場の米海兵輸送機MV22オスプレイの訓練移転が、来年1月から3月の間に道内で行われる日米共同訓練で計画されていることから、演習地に予定されている地域の参加者代表は普天間基地周辺も視察した。

平和行動1日目は、各空港から那覇空港に到着し、北海道代表団の結団式を行った。

2日目は伊江島に渡航し、島内各所を伊江島観光バスの山城克己代表に案内していただいた。山城代表は、「伊江島は



“沖縄の縮図”と呼ばれている。伊江島を見れば、沖縄の基地・観光・農業など、沖縄の構造がわかる」と、ニャティヤ洞(千人洞)や芳魂之塔、被爆慰霊碑など、限られた時間のなかで10ヶ所近くの名所を案内した。また、「住民は好き好んで基地を提供したわけではない。銃とブルドーザーで追い出されたが、それでも自分の土地だと主張して基地の中に黙認耕作地を作った」「日米合同委員会で

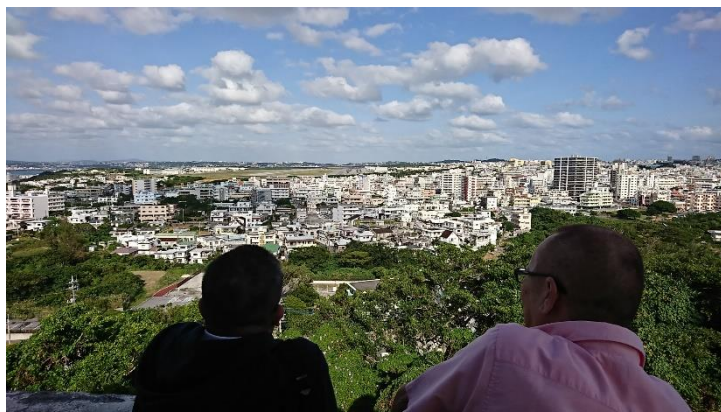


返還合意がされているが、未だに伊江島の3分の1は基地が残っている。なぜ返還されないか。返還合意の但し書きには代替の基地を提供することになっている。普天間も辺野古ができれば返還と言っているが、但

し書きは8つもあり、そのうちの1つには那覇空港を提供しろとなっている。いろいろな問題が絡み合っていて簡単に解決できないことが多い」など、米軍基地があるがゆえの課題や葛藤、そして、決して諦めない強い思いが語られた。

伊江島には反戦平和資料館をはじめ、アーニー・パイル記念碑やニャティヤ洞など、沖縄を一周しなければ見ることのできないものが伊江島にあることを紹介していただき、改めて「沖縄の縮図」として、初めて沖縄を訪れた参加者を含む代表団は沖縄で起きていることの現実を学習した。

3日目は道の駅かでな、ひめゆり資料館、平和祈念資料館を見学、普天間基地周辺を視察する班は、普天間第二小学校・佐喜眞美術館・嘉数高台にて普天間飛行場に配備されているMV22 オスプレイを視察した。また、2004年に米軍ヘリコプターが墜落した沖縄国際大学を視察し、改めてひとたび墜落事故が起きれば住民の平穏な日常生活に被害をもたらすものであることを確認した。



3日目の夜には解団式を行い、参加者からは、「山城代表が言っていた平和運動に宗教の違いも労働組合の違いもないということが印象的だった」「戦争を良しとする教育にしてはならないと改めて感じた」

「実際に自分の目で見て肌で感じるのが大事だと思った」などの感想が出され、平和行動すべての行程を終えた。

沖縄の米軍基地問題を解決する道は「米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の見直し」の実現にこそあると改めて認識し、連合北海道は来年予定されている日米共同訓練の規模縮小とオスプレイ参加の反対運動を展開していく。